

地域の方々の助けがあってこそ就農

新規参入 就農2年目

プロフィール

- 氏名…増山 由理さん (45歳)
- 出身地…岩手県釜石市
- 経営の概要…個人経営 従事者1名
 - ・経営面積…ハウス3棟 (30坪、45坪、42.5坪) 新たに今年2棟新設、水田30a (大豆を作物)
 - ・栽培品目…夏秋いちご、大豆
 - ・販売先…十和田市内のスーパー3店舗、JA十和田おいらせファーマーズマーケット「かだあ〜れ」、ラ・フランス (製菓店)、十和田市アンブレイカブル (カフェ) 等

就農してからの課題や思い

○取り組み

研修先の農地の一角をお借りして、ビニールハウス3棟でいちご栽培を始めました。コストを抑えるため、離農した農家から資材を譲ってもらい、ビニールハウスを組み立てました。販売面では少人数世帯のニーズを考え、ミニトマト用の少量容器を使用するなどの工夫をしています。また、規格外品は、カフェでいちごソースなどで利用いただいています。

○就農してからの課題

夏場の品質維持が難しいと感じています。高温対策としてビニールハウス内に設置する高額な遮光シートの代わりに、安価な炭酸カルシウム剤を水に溶かしてビニールハウスの表面に塗布しましたが、猛暑により効果が不十分となり、品質が低下したため出荷できませんでした。

○課題の解決方法

栽培技術については、近隣のいちご農家のほか、SNSのいちご農家だけのグループから、夏場の高温対策や病気の対処方法などを教えていただいています。現在は、ほどよい酸味が特徴のすずあかねを土耕栽培していますが、今後は、新たに設置したビニールハウス2棟で高設栽培を行い、大玉で果肉まで美しい鮮紅色の「赤い妖精」という新たな品種を取り組み、収益を上げることを目標としています。



増山 由理さん (十和田市)

就農のきっかけ

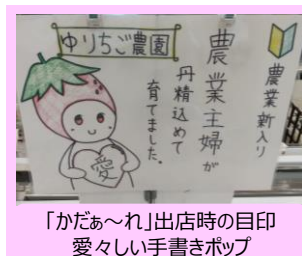
前職は大手小売店で正社員として働いていましたが、シフト制で子育ての時間が確保しづらいこともあり退職しました。その後、子育てが一段落し、新たに仕事を始めようと考えていた時に、周囲から農業を勧められ、未経験でしたが「何事も挑戦！」と思い農業を始めました。夏秋いちごを選んだ理由としては、十和田市でいちご農家が少ないことと、国産いちごが夏から秋にかけて品薄になり、本県では冷涼な気候を利用した夏秋いちごの栽培ができることをチャンスに捉え挑戦することにしました。

○就農にあたっての課題

就農するにあたり、まずはいちご栽培のイメージをつかむため、市内のいちご農家で手伝いを始めると同時に、県民局や市役所に相談して研修先を探してもらいましたが、なかなか見つからず、最終的には手伝いをしていたいちご農家が研修生として受け入れてくれることとなり、ご縁があったのだと感じています。平成30年7月から2年間の研修予定でしたが、夏秋いちごの栽培スケジュールとして、いちごの苗を4月に準備して6月に定植作業を行う必要があるため、前倒して令和2年4月に就農しました。

○活用した支援事業

- ・農業次世代人材投資資金 (準備型)
- ・農業次世代人材投資資金 (経営開始)



「かだあ〜れ」出店時の目印
愛々しい手書きポップ

就農を考えている方へのメッセージ

普段から人との繋がりを大切にしています。イチゴ栽培を始めてからママ友とお茶をする時間が減りましたが、「とりあえずハウスにイチゴ食べに来て♪」と声をかけハウスで交流しています。また、資材屋さんなどにもいちごを差し入れすると喜んでもらえるので、些細な事ですが、周りの方への感謝の気持ちを忘れないことが地域で農業を続けられる秘訣だと思います。



↑【少人数世帯のニーズに合わせた少量パックも展開】